

九州の旅 <復刻版>

昭和38年2月19日 <東京→夜行列車で出発>

東京駅に集合、メンバーは白尾・佐藤・加藤・私の四人。石川と高橋が見送りに来てくれた。石川はキャラメル、高橋はみかんを差し入れしてくれた。窓を挟んで車内と車外とでポーカーをやっている内に発車時刻になった。21時30分発「急行つくし・ぶんご」で予定通り出発。

この旅のキップは「九州周遊券」で、九州内の国鉄全線乗り放題、しかも東京からの往復までが付いている。料金は学割で4,530円（大人料金は6,200円）で通用日数は20日間。我々の旅は12日間、いかに沢山乗って得な気分になれるかもこの旅を楽しむポイントのひとつ。

卒業試験が終わって卒業式までの間の休みを利用しての旅行。旅から帰って再び学校へ行ってみるまでは「無事卒業できるかどうかかわからない」というスリリングな旅行でもある。

下らない話をしている内に京浜工業地帯を通過。車内は暖房で温かい。一回目の検札。

昭和38年2月20日 <夜行列車→門司→門司港→夜行列車>

「カンジャケ〜、ナーマビール〜」の声に目を覚ましたら沼津駅に停車中だった。すっかり目が覚めてしまい周囲を見渡して見ると様々な寝方・寝顔が見えて面白い。余計眠気が失せてしまった。

浜松 2時26分、腹が減ってきたので飯を食って再び睡眠。時計を見ると2時45分、名古屋、もう4時半。日の出まで二時間足らずか。

残雪の山からの日の出を車窓から見てひといきついたら、能登川付近では吹雪。

大津 7時15分。残雪の平野の景色が一瞬にして綿をまとった景色に変わった。東山トンネルを抜けると雪はなくなって快晴になった。京都 7時29分。新聞を買ってひとわり読んだ後は花札。

車窓からの光と車内の暖房とで暑くなってきた。姫路を過ぎたあたりで朝食。

花札の後は福山までポーカーをしたが、白尾君が大勝。

福山 12時04分。近くの席に座っていた気になる美人は広島で降りて行った。

柳井 15時24分。柳井に住むペンフレンドに送るために停車時間を利用して写真撮影。

徳山 16時20分。10数分の遅れと報じているが、特に気にするほどのことではない。

厚狭 17時45分。長い汽車の旅はそろそろ退屈になってきた。少し仮眠をとって頭もスッキリしてきた。

下関を過ぎて関門トンネルを抜けると門司 18時26分。

数分の乗り換え時間で門司港行に乗ることができた。

門司港 18時37分着。長い長い旅の末ようやく九州の地に着地。明治時代を思わせるような姿の良い駅舎は一見の価値がある。駅員に安くて美味しい食堂を聞いたなら、駅員食堂を紹介してくれた。定食70円だった。夕食の後は関門トンネルの見学。通行料10円を払って人道を歩いて県境まで行き、山口県下関市側に一歩踏み入れて帰ってきた。山口県側は道路が凸凹で、県境がはっきりしていたのは面白かった。

20時30分に門司港駅に戻り、待合室で夜行列車を待つ。

門司港発 21時30分、日豊線経由西鹿児島行。乗客は少なく客席はガラガラ。

新田原付近でデッキに立って景色を眺めていたら、外は息が白く吹きだす寒さ。

夜行列車二日目、温かい車内でポーカーの後、めいめい眠りに入った。明日は温かい布団の上で寝られる！！

昭和38年2月21日 <夜行列車→霧島神宮→えびの高原→都城→油津（泊）>

目が覚めたら富高、時計を見ると5時03分。昨晚よりも空いているせいかよく眠れた感じがする。

日豊線の駅標はひらがなの縦書きになっていて、モダンでしかも清楚でわかりやすい。

車窓から見る伝説の国の夜明けは、どこか聖なる感じが漂っている。一本の枯れ木までが何かを意味しているように見えてしまう。

都城 7時38分。駅弁（幕の内弁当 100円）を買って朝食にする。

霧島神宮 8時31分。荷物を預けて霧島温泉行のバスに乗車。霧島温泉に着いてみたが何も見る所がなくつまらないので、えびの高原へ行くことにした。バスで30分ほど、10時半にえびの高原に到着。

えびの高原は白一色の雪景色。雪の中を歩いたり、ソリをしたり、写真を撮ったり存分に楽しむことができた。地面から噴き出す湯気と雪の白さが美しい。12時30分発のバスで霧島神宮駅に戻った。霧島神宮 14時。駅前で遅い昼飯はチャンポン。14時24分発で都城へ移動し、都城発15時35分の国鉄バスで油津へ。昼に食べたチャンポンの量が少なかったせいか、かなり腹が減ってきた。市内バスに乗って油津港へ行き、港に近い所にある石坂屋に18時30分に到着。さすがに港の側だけあって海産物を中心とした晩飯は美味しかったが、ご飯が少々少なめだった。久しぶりに風呂に入ってさっぱりしたが、浴衣の糊が効きすぎていて首筋が少々痛いし、おまけに丈がちょっと短かった。でもそれ以上に、久しぶりに布団の上で寝るのは快適この上なしで大満足、23時に就寝。

昭和38年2月22日 <油津→日南海岸→南宮崎→都城→夜行列車>

7時25分に起床、天気は快晴。まだ眠かったが、やはり夜行列車よりはぐっすり眠れて気分も爽快。朝食は海苔と卵にお漬物と味噌汁。食後宿賃を支払って(一泊二食付き一人当たり 750円)8時半に出発。市内バスで油津駅へ移動し、9時05分発の日南海岸方面行の急行バスに乗車。9時27分 日南海岸への第一歩目は鶴戸神宮。波に洗われて様々な形が出来上がっている海岸線の岩場の雰囲気は、どことなく南紀の鬼ガ城と感じが似ている。第三紀の地層とのこと。高松宮殿下来临記念碑の文字が風化して読み取れない状態になっている。海岸の岩場に作られた神宮は風格があるが、周辺の岩場に書かれた落書きが何とも見苦しい。宮崎交通が宮崎・串間間にフェニックス並木を作ったそうだ。気になって、その値段を聞いてみた。一本30万円ほどし、指先ぐらいのサイズの苗が2万円するとのことだった。鶴戸神宮発11時47分、次の目的地はサボテン公園。サボテン公園は素晴らしいサボテンの群れ。見上げると、ウチワサボテンに切り込まれた落書きが目につき不快な気分になる。トゲナシサボテンなど様々なサボテンを鑑賞できる上に色々な動物も楽しめる公園だ。昼食は月見うどん(50円)。「宮崎交通のバスガイドや車掌には美人が多い」誰からともなく出てきたひとことに全員意見が一致した。13時47分サボテン公園を出発。14時21分 青島着。島と言っても潮が引いていると歩いて渡ることができる。島の周りを歩いて見るほかにすることはない。島の中心部は昼なお暗いビロウ樹林。次はこどもの国。20円の入場券(入国券)を買ったらこんなことが書いてあった。「おじいさんも、おばあさんも、おとうさんも、おかあさんも、おにいさんも、おねえさんも、今日は子どもになって子ども券で入場しましょう」色々工夫を凝らした遊具が用意されているので、「童心に帰って」の指示に従って、自動車に乗ったり回転ドラムで転げまわったりすっかり楽しんだ。17時に青島を出発、南宮崎経由で都城駅へ移動。夕食(定食70円)を食べた後、熟睡用に空気枕を100円で購入。都城 21時26分発、吉都線・人吉線・鹿児島線経由門司港行。今夜も夜行列車は空いているのでよく眠れそうだ。

昭和38年2月23日 <夜行列車→船小屋→熊本→阿蘇→別府(泊)>

5時に目が覚めた。慣れてきたせいか熟睡できた。窓から外を見ると今日も天気は晴の様子。船小屋 5時16分着。構内の売店の人もこの列車で出勤していた。星空がきれいで寒い、東京の寒さに比べれば随分楽な感じがする。こんな駅で下車するには訳がある。本来は熊本で降りるべきところだが、時間が早すぎるので、熊本を通過して船小屋まで行って戻って来ると熊本で寒い思いをしないで済むという苦肉の策。時刻表を熟読しないとこのアイデアは出てこないし、「九州地内の乗り下りは自由」という九州周遊券の特権をうまく使ったアイデアでもある。そんなわけで、10分後に来る下り列車に乗って熊本 7時14分着。豊肥線のホームで100円の駅弁を購入。熊本 7時40分発準急火の山、乗客は少なく車内はガラガラ。

早速車内で朝食となったが、旅にも慣れてきた所で、駅弁を少し勉強してみようということになり、中身を羅列して見るようになった。ご飯にはゴマ、おかずは焼き魚・牛肉・カマボコ・卵焼き・うずら豆・ゴボウ・タクアン・コンブそれに食えない笹の葉。ジーゼルカーは轟音を上げて外輪山を登り始めていた。立野のスイッチバックを経て外輪山を抜けて火口原に入ると、杵島岳・往生岳・高岳が車窓に頻繁に入ってくるようになった。

阿蘇 8時45分着、寒い。乗合観光バスを並んで待つ。バスは9時に出発。

原生林の中を通り抜けた後は雪原を走るようになる。バスガイドさんの説明により杵島岳・烏帽子岳・中岳・高岳・根子岳を阿蘇五岳と呼ぶことを知った。

阿蘇山上 9時40分着。けたたましい寒さに驚いてロープウェイ駅の温度計を見たら-4度だった。ロープウェイに乗って火口を見下ろせる場所まで行って見たが、氷点下の気温に雪と冷たい風で耳が痛い。待避小屋で休み休み歩いたが、寒いし大したものは見えない。

阿蘇山上に11時に戻りバスで阿蘇駅に戻る。

阿蘇の火口原は東西16Km・南北24Km、火口原の鉄道・道路・水はすべて熊本側から立野を通って入ってきているとのこと。途中でバスガイドさんの説明でまたまた学習。

阿蘇駅 11時35分着。駅前の食堂で定食を食べたら110円だった。

阿蘇発 12時56分 豊肥線急行ひかり。寒さに驚いて逃げてきたが、少々未練もある。車内は酒を飲んでいる乗客がうるさい。ポーカーで気を紛らわすことにした。

別府 14時54分着。予約してあった和田彦本家へ行って見たら近所の紙屋という旅館を紹介された。繁華街のど真ん中にある旅館でちょっと驚いた。

初めて来た別府の町、沖には軍艦が停まっております町にはアメリカ人の水兵。

紙屋に入って荷物を置いて、高崎山へ。往路はバス(15円)、帰りは電車(20円)。我々の先祖がこの山でいかなる暮らしをしているかをつぶさに眺めてきた。

温泉があると旅の気分が盛り上がり良い。夕食はまずまずの内容だったが、とりわけカキが美味しかったのとご飯がお代りできたのがうれしかった。

昭和38年2月24日 <別府→中津→耶馬溪ほか→中津→門司港→夜行列車>

7時20分起床、天気は晴。少し眠かったが飛び起きて朝風呂に入って目を覚ました。

朝食もたっぷりいただいて、宿賃(一泊二食付き560円)を払って出発。

別府 9時07分発 準急ひまわりで中津へ。中津着は10時15分。

予定通り耶馬溪めぐりの乗合観光バス(430円)で一日を過ごす。観光バスのコースは、中津駅を出発して福沢諭吉邸→青の洞門→鳴良温泉→深耶馬溪(一目八景)→羅漢寺と巡り中津駅に戻る。

福沢諭吉邸見学の後は山国川に沿って耶馬溪へ。

菊池寛の「恩讐の彼方に」で有名になった青の洞門。「青の洞門」という呼び名の由来をバスガイドさんに尋ねたら、「青は土地の名前、のは格助詞、洞門はホラアナですね」と返ってきた。禅海和尚が掘ったという洞穴は、ノミの後が何となく新しいような気がした。見上げると岩壁と松の対照が素晴らしいし、灯りどりの窓から見下ろす山国川の碧色も美しい。谷にはいくらか残雪もあり色を添えている。

昼食は鳴良温泉の観光ホテルで鯉のアライと鯉コクの定食で150円。美味しかったが、ちょっと高めの昼食にガックリ。耶馬溪に始めてできた温泉というふれこみで目下宣伝中の模様。

深耶馬溪は、夫婦岩など様々な形をした岩が見られるところ。紅葉の頃なら一層の美しさに違いない。

羅漢寺は石段を何段も上がった山の上にあるので景色が良い。五百羅漢は色々な顔つきをした石仏が並んでいて面白い。

絵葉書を買って、ガイドさんと記念撮影。帰ったら写真を送るからということで住所を書いてもらった。

ガイドさんは今年の一月からガイドを始めたばかりだと言うが、話もなかなかうまい。

紀州の瀬八丁を頭に描いて耶馬溪へ来て見たが、少々期待外れだった。ガイドさんの弁によれば、「秋の紅葉の頃に来たらかかなり感激すると思いますよ」とのことだった。

乗合観光バスの帰り道はマイクを回して全員で自己紹介。50人ほどの乗客の内九州の人は二人だけ、大阪が三人、北海道が一人、残りは皆東京の人で、しかも皆貧乏旅行の人ばかりだった。ただ一組だけ旧婚旅行の老夫婦がいて全員の拍手喝采を受けた。気のいい旅好きばかりのバスで和気あいあいのひと時だった。

中津駅に予定よりやや早めの 17 時に帰着。駅前の食堂で夕食は定食 (75 円)。

中津発 18 時 23 分の日豊線で門司港へ。門司港 20 時 50 分着。

今夜の夜行列車は 22 時 33 分発 長崎行。今夜も空いていて、温かい幸せな夜。23 時 30 分に眠りに着いた。

昭和 38 年 2 月 25 日 <夜行列車→長崎→長崎市内遊覧→雲仙→島原 (泊)>

5 時半に目が覚めた、天気は晴。諫早で駅弁 (100 円) を買って朝食。

諫早の駅弁は、いか・魚・コンブ・卵・高野トウフ・ダイコン・ニンジン・ハス・フライ・カマボコ・ハム・マメ・タクワン、かなり色々な物が入っている。

長崎 6 時 53 分着。駅で荷物を預けて、最初の一步は魚市場見物。クジラの冷凍を鋸で切っているのには驚いた。仲買人がいなくて、いきなり小売人が買っていた。

長崎駅前 8 時出発の乗合観光バス (半日コース) に乗車。コースは、崇福寺→大浦天主堂→グラバー邸→十六番館→平和公園→浦上天主堂→国際文化会館とまわって長崎駅に帰って来る。

崇福寺は、唐人が「自分がキリシタンではない」ことを証明するために建てた寺。

大浦天主堂、鐘の音「アンジェラスの鐘」で有名。

グラバー邸は長崎港を見下ろす素晴らしい場所に建っており、や造船所等が一望できる。グラバー氏に関する様々な資料が展示されている。日本文化の発展にかなり貢献された人だとは知らなかった。グラバー邸の庭は、映画で見たマダムバタフライのシーンを思わせるような庭。

十六番館はグラバー邸のすぐ下にあり博物館のようにになっている。

平和公園の平和祈念像 (ブロンズ像) は殆どの人が正面から撮影しているので、一風変わったアングルで横から写して見た。新宿の H 高校の団体が来ていたが、ガラの悪い不良風の学生が多く、見るからにみっともない感じがした。

浦上天主堂の鐘の音は「マリアの鐘」。

国際文化会館には、原爆投下に関する様々な資料が展示公開されている。11 時 02 分で止まったままの時計や融けた瓶などを始めとして「原爆の及ぼした被害の大きさ」を示すものが数多く展示されていた。説明を受けながらひとまわり回ると、そのすさまじさに驚嘆。

長崎駅に 11 時に帰着。次の目的地である雲仙に向かうべく 11 時 15 分の特急バス (240 円) に乗車。

バス発車とともに睡魔に襲われて、諫早まで熟睡。

途中相野展望台で 5 分の休憩をとり雲仙公園に 13 時 25 分到着。

まずは昼食、玉子丼 100 円でしかも美味しくなかった。(というよりも不味かった)

松林と硫黄で黄色い岩と酸っぱいような匂い、100 度はあると思われる湯気の吹きだし。地獄めぐりは雰囲気充分。

雲仙発 15 時 30 分のバスで島原へ。バスは本当によく眠れるところだ。また眠ってしまいこの間のことは何もわからない。

湊広馬場前 16 時 20 分頃。予約してある今宵の宿松島楼に入ってひと休み。宿のおばさん曰く

「5 時半に来る言うたけん、布団干しとったとです」

ひと休みの後、夕方の島原城散歩に。

夕食にアジの刺身が出た。美味しかったが、ご飯の炊き方がいまいちだった。白菜の漬物が格別美味しかった。海に一日浸してから樽に漬けたと言っていた。海水のミネラル分が美味しさの秘訣かも。

昼飯に食べたまずい玉子丼のせいで腹の具合がおかしくなってしまう、食欲がやや減退気味だった。

宿はおばさんと娘さんとでやっているだけで、女中さんは一人もいなかった。すごく家庭的な宿で、夕食後に居間で一緒にテレビを見させてくれた。勝呂誉と島かおりの「箱根山」をやっていた。

22 時 15 分に寢床に入った。

昭和 38 年 2 月 26 日 <島原→諫早→佐世保→西海・九十九島→佐世保→長崎→夜行列車>

6 時 45 分起床、天気は曇。夕べは雨が降ったらしいが熟睡していて気がつかなかった。

朝食を急いで食べて、宿賃 500 円を払い、玄関で家族と一緒に写真撮影。

7 時 45 分に出発し南島原駅へ急ぐ。

7 時 56 分 南島原発、島原鉄道経由の長崎行。学生で満員の車内で、遊びに来た我々は少々肩身が狭い。

神代町（こうじろまち）で切り離されて一両になり、トンネルを一つ潜り抜けたら突然雪がヒューヒュー。諫早 9時06分着。10時発の大村線に乗り換えてもまだ時々雪が降っている。

佐世保 11時20分着。駅前から出る乗合遊覧観光バス（ロ）コースは11時40分に出発。

このコースは、弓張岳→SSK→鹿子前水族館→西海橋遊園地とまわって佐世保駅に帰って来る。

弓張岳は海拔300m余の小さな山。九十九島が見えるはずだが、雪が激しくなってきたり何も見えない。

SSK（佐世保重工）の工場や佐世保港がかすかに見える程度で、寒くて長居はできない。

SSKで一番大きなドックは長さ340m、つまり西海橋の長さと同じぐらいとのこと。もっと身近に言えば、東京タワーと同じぐらいということになる。昼飯はパンと牛乳。

鹿子前水族館はさほど大きくない水族館で、魚よりも人間なれしたガチョウの方が面白かった。

水族館から船に乗って東シナ海の荒波を感じながら、九十九島の景観を楽しみ西海橋まで行く。ここの荒波には肝をつぶしかけた。1mの波が船窓に叩きつけて来ると、次には船が1m位落下する。エレベーターのスピード運転をされているようで、長時間乗っていたらおそらく船酔いになったかもしれない。

西海橋の下は海流のぶつかり合いもあり大きな渦ができる。鳴門海峡・早鞆の瀬戸（関門）と並び称せられる伊の浦の瀬戸。

西海橋は上から見ると下から（船から）見上げる方が秀麗な感じがする。ここで船を降りて再び西肥バスの観光バスに乗り、遊覧コースは佐世保駅が終点。

佐世保駅着 17時10分。夕食に長崎ちゃんぽんを食べて見た。かなり美味しかったし80円は満足。

下り列車まで2時間余りあるので、絵葉書を買ってそこら中へ発信して時間をつぶした。

佐世保発 19時38分、大村線経由で長崎へ。長崎 22時29分着。今夜の宿は夜行列車。

長崎発 22時55分、門司港行。車中で東京から出張で来たと言う人としばらく雑談。

昭和38年2月27日 <夜行列車→戸畑→若松→飯塚→博多→東唐津→門司港→夜行列車>

夜行列車の夜明けにもだいに慣れてきた。今日は曇り空。

戸畑 7時06分着。駅から徒歩数分で若戸大橋。人道用エレベーターから歩道に入った。（通行料10円）風が冷たい。橋が大きすぎてカメラのファインダーに治まらない。工場の煙突と煙、下を走る船と霧笛の音。

若松側まで歩いて渡って展望台から景色を眺める。火野葦平の「河童」で有名な高塔山が良く見える。

若松駅の駅前で食堂を探したが、どこも開いていない。仕方がないので朝飯は食べずに先へ進む。

若松 8時34分発、飯塚行に乗車。ここでも車内は通学の学生で満員。飯塚 9時42分着。

駅前の食堂でようやく朝食にありつけることになった。定食（味噌汁・タクアン・ご飯）が60円。贅沢にデザートとしてヤクルトを一本飲んで景気づけ。

飯塚 10時27分発 快速博多行。車窓を走り抜けて行く大小のボタ山を見て、筑豊へ来たという実感。

時々雪がパラついてきたが降るほどにはまでは至らず。

博多 11時42分着。乗り換えの時間を利用して駅前の西鉄案内所へ行き芥屋根大門（けやのおおと）についての情報を得ようとしたが、あまりはっきりした情報は得られなかった。予定通り、筑肥線で筑前前原まで行ってみることにする。

12時10分 博多発は10分遅れで発車。

筑前前原（ちくぜんまえばる）12時52分着。バスターミナルで昼食（スキヤキ100円）を食べて、12時58分の芥屋行のバスに乗車。約40分（バス55円）で芥屋大門に到着。

玄界灘の荒波が岩壁に当たって砕けて散る様は素晴らしい。重厚な岩の色、紺碧の波の色、それに松の色が加わり力強さと美しさが感じられる。随分たっぷり楽しんだ感じがする。16時に芥屋を出発。

筑前前原駅に戻ると17時頃だった。昼食を食べた店にまた入ってキツネうどんを食べてひと休み。

筑前前原発 17時41分。準急九十九島（博多行）に乗るためにわざわざ筑肥線でさらに西へ。

東唐津 18時28分着、18時45分発。就職のために旅立つ若者を見送る光景を見て何とも言えぬ複雑な気分になってしまった。

博多 19時41分着、鹿児島線に乗り換えて20時発快速門司港行で三度目の門司港駅へ。

門司港 21時17分着。慣れた足取りで待合室に入って夜行列車待ち。頭のおかしい浮浪者がなにやら独り言をつぶやいていてうるさい。

門司港発 23時30分、鹿児島線・吉都線経由都城行。

昭和38年2月28日 <夜行列車→鹿児島→桜島→西鹿児島→山川→開聞岳（泊）>

実に熟睡した。車窓から見る朝景色は晴天。

人吉で駅弁を買って朝食。洋食弁当という名に魅かれて150円を奮発して見た。満腹だし内容的にも満足。吉松 8時55分着。9時03分発の肥薩線に乗り換えると、またしても通学ラッシュで満員。

鹿児島着 10時34分。駅から桜島棧橋へは数分で行くことができる。

桜島棧橋発 11時、西桜島村村営の船で袴腰へ。船はピストン航路のフェリー。（往復60円）

袴腰 11時20分着。国鉄の桜島半周観光バスは12時半発で時間があるので大正溶岩台地を散歩。溶岩の様々な形には大自然の力を感じる。パイナップル屋で試食を楽しんだ後、昼食はラーメン（50円）。

「バナナ10円」の看板に引っ張られて店に入って見たら、随分小さな惨めなバナナだった。食後のデザートにバナナも悪くないなと思い、3本50円のやつを購入。他の店を覗いて見たら3本70円だったので、少しばかり得した気分になった。買ったバナナには奄美大島産と表示があった。

袴腰 12時30分発、島半周の乗合観光バス。バスが走り始めるとすぐに南岳が噴煙を上げたのでバスは緊急停車。なぜかと言うと、お客さまにシャッターチャンスを提供しようと言うもの。全員がバスを降りて道路から写真撮影。最高のアングル（自己評価）で数枚の写真を確保。

昭和の溶岩から遡って文永の溶岩まで様々な噴火の歴史が残っており、バスガイドさんの説明も合わせると大変勉強になる。桜島は、薩摩半島と大隅半島を外輪山とする複式火山だったと考えられ、阿蘇をしのぐ大きさになると言う説明があった。海の向こうに本日のゴール地点である三角形の開聞岳が見える。

袴腰に14時10分帰着。パイナップル屋を覗いて味見し歩く間に船の時間になった。

袴腰発 14時25分、桜島棧橋 14時48分。指宿線の時刻が迫っているのでタクシーで西鹿児島駅まで。西鹿児島駅構内を突っ走って辛うじて間にあった。タクシー代170円を奮発した甲斐があった。

西鹿児島発 15時。これまた帰宅時の通学ラッシュ。

山川着 16時15分。16時18分のバスに乗らなければならない。忙しい乗り換えが続くものだと焦ってバスに乗ったら、5分遅れて発車した。

薩摩富士 開聞岳の足元のバス停で下車。国民宿舎かいもん荘は海沿いに建っていて、弧を描く海岸線の上に開聞岳が立つ最高の佇まい。鉄筋コンクリートのモダンな建物で、館内もきれいになっている。部屋は「鏡池の間」、夕食はこの旅で最高の内容で文句なし。旅も終りに近づいてきた。旅を振り返りながらももう一度風呂に入って温まって床に就いた。

昭和38年3月1日 <開聞岳→山川→指宿→西鹿児島→鹿児島→夜行列車>

天気は晴、開聞岳がくっきりと見えて、今日も気分爽快。宿賃は670円、部屋も食べ物も良かったし、風呂にも二度入ったし満足。

山川駅へ行くバスは満員。山川港へ行ってみるか、指宿へ行って見るか迷った結果指宿へ行くことにした。山川発 9時53分（実は遅れて10時発）。指宿 10時06分頃。

指宿名物の砂蒸し風呂を見ようと思ったが、タイミング悪く満潮で駄目だったので町をぶらぶらして終わり。指宿 11時17分発。ジーゼルカーは人間の他に郵便物も乗っており、特に朝の時間帯だからか荷物がかかり多い感じがする。どっちが主人公かわからない程に郵袋が山積みになっていた。

西鹿児島 12時32分着。これから乗ろうと思っている急行霧島の予想乗車率は120%という情報を得たので、急遽市内散歩をとりやめて乗車・座席確保が可能なための策を考えることにした。

昼食のついでにサイダーで「旅の無事終了」と「全員無事卒業祈願」の乾杯。食後すぐに鹿児島駅へ移動。

西鹿児島 13時27分発 鹿児島 13時38分着。

二時間半後に出る急行霧島（東京行）に乗る予定の客は、改札口にいっぱい並んでいる。交代で土産物を買に行き、パイナップルを二個450円で買って来た。整理券が390枚発行されたようだが、もうなくなっていた。困っていると、通りがかりのおばさんが不要になったと言って三枚くれた。番号を見て驚いた。

No.388・389・390の三枚だった。列に並んで乗車の時を待った。

改札口が開いた。走る・乗る・突っ込む・探す・座る・息もつかぬ素早い対応で、無事座席も確保できた。発車までまだ30分あるのでホームで絵葉書を買ってほっと安堵の胸をなで下ろすと発車のアナウンス。

鹿児島発 15時55分、急行霧島東京行は超満員でダイヤ通り発車。

串木野で大阪に就職する女の子が乗ってきた。両親や友人に送られて涙を流して車内から手を振っているのを見て、こちらもぐっと来てしまった。

出水で駅弁を買って夕食。長旅の思い出を振り返りながら細切れに睡眠。

昭和38年3月2日 <夜行列車→東京>

何となく眠り、何となく目を覚ますことを繰り返している内に朝になった。

尾道、空がきれい、今日も上天気になりそうだ。岡山で駅弁を買って朝飯。

列車はコトコトとマイペースで走り続け、いつの間にか一日が経ってしまった。

東京着 18時35分、15分遅れで到着。鹿児島で乗ってから25時間余、随分長い旅路のように感じはするものの、12日間の旅として見ると何だかあつという間に過ぎてしまったような気がする。

「九州地内の国鉄全路線（急行自由席まで無料）乗り放題プラス東京往復（急行自由席まで可）」である

九州周遊券は学割で4,530円。我々が実際に走破した距離は国鉄営業距離で5103.4Km。

実際に通り抜けてきたコースの各々の運賃と料金を計算して見たら（周遊券なので支払う必要はなかったが）12,760円になった。「4,530円払って12,760円分乗ってきた」と考えると随分得をしたような気がする。

明日は卒業式。

以上

あとがき（後日譚）

平成23年11月、机の下の箱を片付けていたら、一冊の小さなノートが出てきた。昭和38年に九州へ旅行に行った時の記録ノートである。

48年の時を経て、ノートはかなり変色して少しずつ壊れ始めていた。

完全に崩壊しない内に書き写しておこうと思い、パソコンに向かった。

かくして18歳の体力と気力と工夫が漲った12日間の旅の足跡を再現できることになった。

この旅が終わるとすぐに高校の卒業式、そしてその一か月後からサラリーマン生活が始まった。

さらにこの旅から16年後、九州支店（福岡）に転勤になり、九州各地を駆け巡る仕事を四年間経験した。九州という土地が、私の人生の中で切り離すことができない深い関係を持つきっかけになったのがこの旅だったような気がする。（2011年11月記）

